

～あなたも千年の伝統の見届け人になろう!!～

相模国府祭

▼とき

5月5日(水・祝日)

▼ところ

神揃山・馬場公園



千年以上の悠久の時を経てなお受け継がれている伝統、相模国府祭が、今年も開催されます。

寒川神社と川勾神社の「われこそが相模国の一宮である」という争いを神事化した『座問答』は神揃山にて、日本全国で大磯町と中井町でしか行われていないと言われる、舟形舞台で舞う『鷲の舞』は天下泰平を祈り馬場公園にて開催されます。

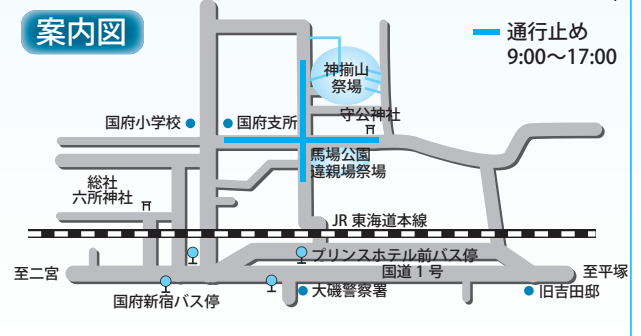
今年の座問答も「いづれ明年まで」と決着せず、来年に持ち越されるのでしょうか。

皆様の目と耳で受け継がれていく様を、見届けに来て下さい。

isotabi.com

検索

案内図



◎問い合わせ 観光推進室 ☎内線 248

国府祭(このまち)

(県指定有形民俗文化財)

大磯の文化財

国府本郷の神揃山や大家場(逢親場・大矢場)を中心に、一之宮(寒川神社)、二之宮(川勾神社)、三之宮(比々多神社)、四之宮(前鳥神社)、平塚八幡神社の5社の神輿が寄り集まって六所神社との間で特殊な祭祀が行われます。

この祭りは、この地に国府が営まれるにあたって近在の有力社を合わせ祀ったとする総社制度に由来し、1千年近くの伝統を持つと言われており、また、

六所神社の母神をもとに五人の兄弟神が集まり、1年の悪神平定の手柄を報告しあうものだとも伝えていきます。

もともと旧暦5月5日に行われていたことから端午祭りとも呼ばれていましたが、昭和40年代までは、新暦の6月21日・22日に行われていました。

近在の農家ではこの日までに田植えや麦の収穫を済ませるなど、農作業の目安としており、このときに開かれる市では農具が売られ、買い求める人々が

賑わいました。

また、大磯では、国府祭に合わせて端午の節句を行いました。家に男児があれば幟を立てて五月人形を飾り、屋根にはシヨウブ、ヨモギ、カヤをそれぞれ束ねたものを屋根にさし、風呂はシヨウブ湯にして入りました。なお、昔はお見合いの祭とも言われ、娘たちはこの日にあわせて着物を新調し、新しい下駄を買いました。若い人たちにとって大きな楽しみだったようです。

◎問い合わせ

生涯学習課

☎内線 323

磯っ子レポート

NO.72

初めて出た卒業式

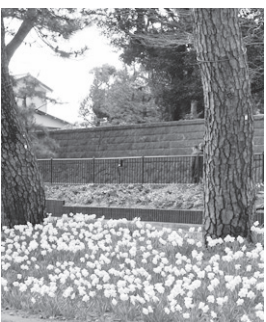
3月19日金曜日は、今まで一度も出たことなかった卒業式に在校生の代表として、出ました。私は、「別れの言葉」というので、言葉を一つ言いました。少いだけ、きんちようしました。卒業式が終わった後は、おいてあったサクラソウなどを外に運んだり、していたカーペットをきれいにまるめたりしました。

来年は、私たちが卒業生になって、おくられるがわになるので、きちんと身をひきしめていきます。 (岸本 明奈)

水仙

統監道の松並木の下に、水仙の花が咲いていました。

水仙は一つ一つの色はうすいけど、たくさん集まって咲いているとまるで、白じゅうたんのように見えます。



▲じゅうたんのように見える水仙の群生

毎年春になると咲くので、植物で季節感を味わえて良かったです。 (内海七夕美)

大磯運動公園まつり(3月13日)

会場では、菜の花つみやお花のなえなどを配布して、私も菜の花つみを友達としました。黄色い花弁と、菜の花の良い香りがしました。

大磯の公園を歩くスタンプラリーも行っていて、とても良い行事だな、と思いました。

大磯に住んでいる人々にとっては、地域との交流などが今までもより深まり、より笑顔あふれる大磯町になるのではないかと思います。 (内海帆奈美)

私も小学校生活が残り一年となったので、最上級生の自覚と責任を持って、子供記者もふくめ、頑張っていきたいと思えます。 (内海帆奈美)

このコーナーを一緒に手伝ってくれることも記者を募集しています。

◎問い合わせ

政策課 ☎内線 207